



間宮瑞夫さん



小松屋にて

**思います、こうして今の太田宿があるのは、どうしてと思われるか。**

**間宮**：やはり交通の要衝であったことではないでしょうか。古くは、承久の乱（注1）でも、太田をpushすることが戦の勝敗の分かれ目になったといわれています。

近代でも、明治以降水上交通やその後の鉄道など交通路の発達で、今の美濃加茂市を築いてきたと思います。

**林**：中山道でいえば、鵜沼から太田を経て御嵩へいく陸路が、距離的に一番近かったからではないでしょうか。

**太田宿の中で絶対に見てもらいたいと思われるポイント**

**間宮**：現存している建物としては、脇本陣（旧太田脇本陣林家住宅）になると思います。それは、宿場を象徴する一つだと思います。

**林**：私は、太田の渡しの変遷は、知っていただきたいですね。それと、脇本陣かな。（注）脇本陣の特長は、今も生活の場としていて、日本ではこのほかに2カ所しかないそうです。

**間宮**：太田の渡しの石畳も大切な歴史的資料ですよ。

**林**：昔、荷車が通って敷石が割れたり、人が往来してころころした川原石が平らになったことは、歴史的な価値があると思いますよ。

「枅形」も知っていただきたい一つで

すね。祐泉寺の北側と下町にありました。祐泉寺の北側は、道路の拡幅により、昔の面影がなくなり、枅形も江戸時代と少し変わってきましたが、下町側は今も当時のままです。

また、文化会館の近くに一里塚がありました。この一里塚が土田側と太田宿側にあつたことは、あまり知られていないと思います。

この一里塚が、なぜ2カ所にあるかということは、先ほどの渡しの移り変わりによるものです。今でも、「渡」という地名が土田に残っています。その後、渡し場が上流側に移動し現在の場所、太田橋下流側に移ったとされています。

それと、太田小学校南の虚空蔵堂近くにある松の切り株も中山道の面影を残しています。

中山道の入り口あたりには、街道を象徴する松並木がありました。昭和30年代に松くい虫の被害にあい枯れてしまいました。

わたしは、ある人から松の切り株を譲り受け、今も保存しています。

時がたち、太田の町が変わっても、往時の姿は、残したいですね。

（注1）承久三年（1221年）に、おきた承久の乱で、鎌倉幕府軍と後鳥羽上皇軍が戦った「大井戸の渡し」は、太田の渡だったといわれています。

（敬称略）



かつての面影も今はない木曾川を今日ものんびりと船が下っていきます。



「すべり石」銘板前にて

太田小学校南にある、「承久の乱・木曾川古戦場跡附近」の道標。この奥には、旧中山道松並木の切り株が今も残っています。